

西高卓球部の思い出

十期生 井室 迪子

先日後輩の吉田さんから、西高卓球部時代の事を書いてもらいたいとお電話をいただきました。十期には熱心な男子部員が大勢おられましたし、旧姓林さんという才女もおられるのに、色々な事情から、私が代表して書くことになり、当惑しています。

私が西高に入学したのは、二十一年前の昭和三十年です。待望の高校に入れて、喜んでゐる時、色々の部の勧誘がありました。先輩に当時活躍中の荻村選手がいられる事位は知っていたと思います。中学の親友の林さんといっしょに、女子でも出来そうだという事で、選んだのだと思います。入部希望者が多く、四月から六月位は一日十分位しか練習出来ません。体育館は壁が落ちた所もあり、五台程の台は、割れているのや、足のしつかりしないのもあり、設備は決して整っていませんでした。そんなある日、新しい台が購入され、その記念に、荻村選手と田中選手（これは写真があり注がついています）の華麗な卓球試合がありました。新米部員として、一生懸命球拾いをしたのを覚えています。中学時代に卓

球はやっていないので、ラケットの選定まで、先輩にお世話になりました。指導も、男子先輩ばかりにしていた感じでした。習う方がもっと才能や器用さがあつたら上達したのでしようが、熱心さばかりではどうにもなりません。同級の城川さんや大橋さんが試合に出るようになって、私達は本当に気おくれしました。たまに都内の高校生の試合に出て、応援に来て下さる人々に悪いと思う結果ばかりでした。試合に適用しない技量なのに、何故長続きしてOB名簿に名前ののるまでいたのかと不思議に思われるかもしれません。

当時の西高は、教室では勉強の事ばかりで、ほとんど男子と話しをする折等なかったようです。又、縦のつながり等は、クラブ活動でもしていなければなかった様です。忘年会、新年会は五日市街道や荻窪あたりのそばやが主でしたが、結構面白く、又この間に千駄ヶ谷体育館で世界卓球大会もあり、皆で応援に出かけたのを覚えています。クラスの人々の名前は大半忘れましたが、卓球部の人々は覚えてあります。私にとって、勉強に励んだ西高と卓球部とは、後者の方が、印象が鮮明です。心地よい汗を流して、適度に疲れて、今はもう見られない麦畑の中を、夕方、久我山駅まで帰るのは、高校時代の楽しい一刻でした。

最後に、私達が良い先輩に恵まれたのに、私達自身は決して良い先輩になれなかったのを、お詫びします。

（私達・林さんと私の事）